

会議録

会議の名称	平成30年度 第4回移動支援のあり方を考える勉強会
開催日時	平成30年6月27日(水) 午後2時から午後4時まで
開催場所	南町地区会館
出席者	<p>【委員】稲垣会長、土谷委員、小川委員、町田委員、和田委員、中静委員、長谷川委員、島田委員、大安委員、金成委員、金子委員、佐野委員、絹川委員、神崎委員</p> <p>【事務局】松本都市計画課長、広瀬主査、梶木主事、亀井主事、山倉主事</p> <p>【関係部署】高齢者支援課、障害福祉課、協働コミュニティ課、産業振興課、生活福祉課、社会福祉協議会(ほっとネットステーション)</p> <p>【講師】荒川区役所 長野氏</p>
内容	<p>1 開会</p> <p>2 配布資料の説明について</p> <p>(1) 移動支援のあり方を考える勉強会のスケジュール(6/27時点)</p> <p>(2) 意見交換の様子</p> <p>3 15年後の地域の将来像について(ワークショップ形式)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15年後の地域の将来像について ・現状の課題の整理について ・目指すべき将来のために必要なことについて ・まとめ <p>4 総括</p>
会議資料の名称	<p>資料1：第3回移動支援のあり方を考える勉強会会議録</p> <p>資料2：移動支援のあり方を考える勉強会のスケジュール(6/27時点)</p> <p>資料3：意見交換の様子</p> <p>ワークショップ資料</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>1 開会</u></p> <p>○会長：これまでの勉強会で課題整理をしてきたが、その中では、実際に地域の中を移動している方々の課題と何らかの理由で外出できていない方々の課題の大きく分けて2つの課題について話し合ってきた。</p> <p>この勉強会は移動支援のあり方を考える勉強会ではあるが、「移動」だけではないご意見もたくさん出てきている。例えば、行先、地域の中での過ごし方、買物の環境、コミュニティ、憩いの場やご家庭の中の話、それから障害者の方の車椅子の問題など色々なお話があった。</p> <p>そもそもこの地域に住んでいる高齢の方、障害をお持ちの方や子育てをされている方の生活の質を高めるためには、どのような課題があるのかきちんと議論して、出された課題については、今回集まっている行政の色々な部署に関わってくるが、その中でも特に「移動」に関する課題については、この勉強会において今後徹底的に議論をすることになると思う。</p> <p>これまで総合的な話で進めてきているので、今日も移動、交通の話題だけにかたよらないようなワークショップにしたいと考えている。</p>	

本日も自由に、忌憚のないご意見をお願いしたい。

2 配布資料の説明について

○事務局

【資料説明の要旨】

- ①資料1：第3回移動支援のあり方を考える勉強会会議録
 - ・修正等の意見の確認 → 修正なし
- ②資料2：移動支援のあり方を考える勉強会のスケジュール（6/27時点）
 - ・今後のスケジュールについて説明
- ③資料3：意見交換の様子
 - ・前回の勉強会の振り返り
 - ・外出ができない方々の理由と西武柳沢駅や東伏見駅の利用が少ない理由の意見について説明

3 15年後の地域の将来像について（ワークショップ形式）

○事務局： これまでの勉強会において、地域の移動実態の把握や課題整理、また外出できない方々の理由など、現在の皆様の周りを取り巻く状況について、様々なご意見をいただき整理してきた。

本日のワークショップでは、15年後の本地域の将来の目指すべき理想的な姿を描いていただき、具体的な移動支援のあり方を考えるためのヒントを得る機会にしたいと考えている。

本日のワークショップにあたっては、これまであまりこのような地域の移動支援を考える際に実施されてこなかったワークショップの手法を、稲垣会長からご提案をいただき、今回、本市としても初めての手法ということもあり、これまで数々のご経験をお持ちの荒川区の長野様をご紹介いただいた。

○会長： この地域は道路が狭いなど制約条件があり、バスを走らせることは難しい地域であるということをご理解いただいていると思う。

そのため、バスではないやり方で、何か皆さんの移動のことを考えられないかというご相談を事前にいただいていた。

このようなワークショップをやる場合、最初に課題を整理して、次に課題解決のために何をするかという手段の話になり、通常そのときに行政からいくつかの手段が提示され、財政的な観点からベストのものを選ぶような流れになる。ただ、他の事例を見ていると、この流れで進めてしまうと細かな話になってしまい、せっかくこれまで多岐に渡る色々な課題について出されてきたものが置き去りになってしまう。

私のほうでこの地域のことを考え、本当に必要な手段を選ぶやり方は何かないかと考えたときに、ワークショップの手法として「トランジション」というやり方があると思った。

トランジションとは、訳すと「その先に移る」という意味がある。仮に今ここで新たな移動支援が決まったら、その後、まちが良い方向に少しずつ変

わっていくはずである。その後5年後、10年後、15年後には社会情勢も変わってくるが、新たな移動支援が入ることによって皆さんの生活がより良い方向に行くことを願っているはずである。「その先」を先に考えるというのがトランジションの考え方である。

皆さんの机には、大きな紙が用意されており、一番右には課題が整理されている。真ん中には何をすればよいかと書かれており、これが手段であるが、まずは、一番左の15年後の私達のまちはどうなっているかを先に考える。ただし、あまり非現実的なことではなく、15年後のことを考えて、きちんとベクトルを作ってから、それを実現させるためには何をするかを考えられたらいいのではないかと思っている。

公共交通政策を考える際に、この方法をやるのはおそらく日本初だと思っている。是非皆さんに取り組んでいただきたい。

それでは荒川区の長野さんについて紹介する。

～長野さんの紹介～

今回のワークショップのやり方は彼から知識を得たところである。実際にこのようなワークショップも経験しており、色々な経験をお持ちの長野さんに説明してもらい、進めたいと考えている。今回はこのようなワークショップのプロに来てもらったと思ってもらえればいい。

○講師： ～自己紹介～

チェンジという言葉は変化するという意味であるが、チェンジは一回限りである。繰り返し変わっていくことがトランジションである。

問題があった際に一回変わったぐらいでは解決しない。何度も何度も変化していくことで、理想的な形になっていく。あるいは問題があってこれ以上大きくしないためにどうするかを考えることがトランジションである。

この考え方は、オランダが発祥であるが、オランダという国は問題があると、これ以上ないくらい叩いて叩いて問題を悪化させて、そこからスタートする。日本はどちらかというと臭いものには蓋をするという文化で、それが特に福祉の方の話である。例えば、閉じこもってしまう高齢の方がたくさんいると思うが、それは当然で、なかなかコミュニティに出て行けないとか、状況が分からなければ地域にどう関わっていいか分からなくなってしまふ。それにもずっと蓋をしまってきた。徹底的にそこを叩いて叩いて悪化させることをしなかったので、余計悪化してしまった。

移動の問題は地域の問題そのものである。「移動する」という観点では、地域の環境、繋がり、住んでいる人たち、資源など、全てが関係してくる。どれかひとつでも欠けていると上手く移動というものが効率的に動いていかないということが日本各地で出てきている。上手く対処できずに、より解決できない問題に発展してしまっていることがたくさんある。

荒川区と西東京市にはたくさん共通点がある。ひとつは道路が狭いこと。道路が狭いと通せる車両が決まってしまう。もうひとつは、建物が密集していること。市街地の密度が高く、自動車の保有率も高い。昔ながらの市街地と新しい市街地が混じっていると思う。そうなると人それぞれで目的や住んでいる環境が全く異なっている。

これまで、色々な全国の地域に入ってこのようなまちづくりのお手伝いをしてきており、今回は是非皆さんと一緒に考えていきたい。

ワークショップでは何でも聞いてください。テーブルを回るので一緒に議論させてほしい。できる限り皆さんが思っていること、なかなか言葉にしにくいところ、考えているがなかなか表現しにくいところを引き出すお手伝いをする。

私の資料の前に、資料3をもう一度見てください。課題がたくさんあがっていて、すばらしい。ただ、たくさん課題が出てきたと思うが、短期的に解決できるものと中期的なのか、それとも長期的な問題なのかという整理がまだできていない。

自助や共助の話は皆さんも聞いたことがあると思うし、普段から気にされていることと思う。自助はいわゆる自分の生活である。共助とは制度になっていることで、皆で助け合っていくもの、例えば社会保険や介護保険である。それから公助は行政が支援することであり、このような勉強会を開くことも公助に近い。

これに加え、「互助」という考えがある。どちらかという制度化されたものではなく、皆で集まって話し合い、良い方向に持っていく。まちづくり全般である。皆さんがこのように集まって議論していること自体がまちづくりである。まちづくりの主役はだれか。

○委員： 住民である。

○講師： 市民ひとりひとりが主役である。脇役はいない。誰しものが主役であり、主役の人がたくさん集まる場合、話し合わなければ方向性は決まらない。そのため、今日は「互助」の考え方を踏まえて、地域で取り組めることは何かを考えていきたい。

このようなやり方でワーキングが成功している事例はたくさんある。逆にここをやらずに最後までたどり着けなかった自治体もたくさんある。

今日考えていただくことは、3点である。ひとつは、皆さんの課題はすぐ解決してしまうのか。それともずっと続いてしまうのか。あるいは何らかの形で解決できるのか。そこを整理したいと思う。

将来的にどのような地域にしたいか。どんな地域を残したいか。残せるかどうかは何かきっかけが必要になる。当然課題を解決しなければならない。課題を踏まえて、今起きている問題をどうしたらいいか。誰と組んで何を解決するのか。そういうことを皆さんと考えていきたい。

これまでは課題について皆さんが一生懸命考えてきた。それが自助で解決できるのか、公助が必要だったのか、共助でなんとかできるのか、それとも互助ということでこのような場で話し合っ、納得して進めて行ったほうがいいのか、議論をすることで少しずつ分かれてくると思う。

より分かりやすくするために15年と設定したが、今赤ちゃんである子が15年すると高校生ぐらいになる。それまでは保護される側であったのが、生産年齢人口に移ることになる。その子が生産年齢人口になったときに地域に残るかという、出て行ってしまふかもしれない。なるべく地域に残ってもらいたいのに、その時点で魅力がないと困ってしまう。

そのためにどうしていくか。そこを考えられる力があつたほうがいいだろうと思う、市から課題についての解決策を提示されるのではなく、皆さんのほうで、こういう課題はこういう方向に向けていったほうがいいだろうとい

う提案できたほうが面白いのではないか。そこを考えるために今日のやり方を設定した次第である。

○会 長： これまで色々と課題を出していただいて、周りの高齢の方の意見が出てきていると思う。その方々が15年後どういう風になっているか。また、15年後にこのような課題を抱えそうな方々がいると思うが、その方達が課題を抱えないようにするにはどうするかというのが、15年後の理想である。次の世代の方達のためにより良いまちを残せるかを考えてほしい。

長野さんが話されたのは子育ての観点での議論になってくると思うが、今まで議論してきた内容も踏まえて、まず将来像の方を考えていただきたい。

【ワークショップ】

- ①地域の将来像について：15年後の私たちのまち…どんなまちか？
- ②地域の課題について：現状の課題は何か？解決できる課題か？
- ③どのように解決するか：そのためには、今、何をすればよいか？

【ワークショップの発表】

[1 グループ 発表]

②地域の課題について

- ・まず、課題の中でできること、できないことを明確にした。
- ・地形、道路に関することは今回解決策を考えるのをやめた。
- ・目的、買物、行動の制限について、今からできることがないかを検討した。

①地域の将来像について

- ・世代を超えた色々な人たちが一緒に楽しく暮らせるまちを目指すのが理想である。
- ・バリアフリーに力を入れたい、例えば歩道が広がって個人が動きやすくなる。
- ・交通事故がないまちになる。
- ・車がなくても行ける目的地がある。
- ・空き家が増えるので、シェアハウスにすることで、使える土地が増えてその土地を居場所などに活用する。
- ・店舗が少ないので、URの建替えの際にショッピングセンターができるといい。
- ・明日なにかをしなければならぬという、外出目的が明確なまちになるといい。
- ・人それぞれ感じ方はあるが、キーワードは楽しい場所があるといい。
- ・バーチャルリアル（仮想空間）で色々なことができるようになる。
- ・究極は移動支援がいらぬまちになるといい。
- ・今回のように市民と行政が一緒になって課題を解決していければいい。

③どのように解決するか

- ・地域のコミュニケーションを活発にしていく。
- ・バリアフリーに関する認識が低いので勉強する機会を作る。
- ・高齢の方は身体が弱らないよう自らも気をつける。
- ・町内会がこれから必要になる。若い人に参加してほしい。既存の町内会ではなく、何か新しいコミュニティが必要ではないか。

- ・回覧板の復活や情報共有ができるといい。
- ・移動に関しては、バス停の近くに駐輪場があるといい。
- ・荷物を載せられるような電動アシスト三輪車が気軽にシェアリングできるシステムができるといい。
- ・道路を歩行者天国のようにして、物品販売できるといい。
- ・道路規制の見直しのための行政の広い心が必要。
- ・今あるお店が色々な商品を買ってくれればいいのではないかと。
- ・空き家などのフリースペースが有効活用されるといい。

[講評]

○講師： 技術の話も出てきたが、実際に実現してしまいそうな話もあったと思う。課題の捉え方が面白く、道路の話などを置いておいて、そうではない観点から具体的な話をしていく。このように整理していくと、所々で具体的な策が見つかる可能性が高くなる。

例えば、買物の話が多く出ていたが、近場でどう動いて、近場に人が集まれる場所を作るのかという話と、遠くに出かける場合にどう移動するのかという話は、目的と手段が全く違う状況に分かれてきて、そこで具体的な話し合いが今後できるのではないかと思う。

一方で、互助的な話でいうと、仲間を集めようという話がすごく良かった。仲間を集めて、何をすれば理想の形になるのかを次にもう少し考えられるともっと良いと思う。仲間を集めてできることは、色々な可能性があり、例えば皆で誰かの車を使ってシェアしたり、その車で子供達を送迎したり、日中に物品の販売をして回ったりすることができるかもしれない。また、別の人の車を使って医者を呼んでくることもできるかもしれない。

外出をしてどこかに行くのではなく、近場に集まって解決することもあれば、遠くに行かなければならないこともある。もう少し議論していけば、そのような具体的な話がでてくるのではないかと思う。

ソフト、ハードの多角的な面で色々な検討をしていて、とても面白いなど思ったのでこのような議論は大事である。以前に他の団体でやったときよりも活発な議論がされていた。

○会長： こちらのグループの場合、どのように解決するかという意見の「主語」が色々な登場人物であったという印象である。つまり、住民の皆さんであったり、行政であったり、警察であったり、事業者や商店の方であるとか、色々な方々が何かをやるというイメージであった。

また、歩けるまちにしたいが、空間の話は置いておいて、時間帯などで規制を変えるなど、道路の使い方歩きやすいまちにしていこうという発想は私にはなかったもので、非常に面白いまとめになったと思う。これを元に次に活かしていければと思う。

[2グループ 発表]

②地域の課題について

- ・2グループは1グループと異なり、課題の全てについて議論を行った。
- ・その中でもコミュニティや若い世代の協力が少ないという意見、農産物のブランド化といった意見が新たに出た。

①地域の将来像について

- ・行政の実施している都市計画についての意見があった。
- ・まちの機能性をどうするか、まちを将来どういう姿にするか、まちの魅力をどう作るかという3つの観点で話し合われた。
- ・まちの機能性は、駐車場、駐輪場のことやバスを通れるようにすることである。また、歩行者に優しいまちであるとか、公共交通のバランスをとることも必要であるし、公共交通を増やしてほしいといった意見もあった。
- ・まちの将来の姿は、コミュニティの話があり、皆で協力しあうこと、ボランティアや助け合いが必要であるといった意見であった。自らコミュニティを作り上げたり、地域単位で冷暖房を管理したりしたらどうかという意見もあった。
- ・まちの魅力については、住民優先の道路にしたらどうかという意見があった。

③どのように解決するか

- ・道路に関すること、コミュニティ、ボランティアに関すること、交通に関することの3つの観点から意見があった。
- ・道路に関しては、碁盤の目のようにきれいな街並にしてほしいという都市計画についての意見があったが、15年後に道路が拡幅したり、綺麗に区画されたりすることは難しいので、歩行者、自転車、自動車のそれぞれの機能に分けてはどうかという意見があった。そのために、規制や計画が必要である。
- ・コミュニティ、ボランティアに関しては、皆で助け合うグループを作って、草むしりや木の伐採をしてはどうかという意見があった。また、話し合う場所がほしいといった要望もあった。
- ・交通に関しては、狭い道路という問題があるので、小型のバスを通すために行政に色々やってもらいたいという要望があった。

[講評]

○講師： 都市計画的にコントロールしなければならないという側面と住民自治としてコミュニティを作っていく、いわゆるガバナンスの側面を上手く分けて考えている。

おそらく行政への要望事項がたくさんあると思う。また、向う三軒両隣といったお話もあったかと思うが、これは昔の原風景を残しながらまちづくりを進めていくということである。世田谷区の二子玉川では昔ながらのものと今の新しいものを上手く組み合わせている。

昔ながらの原風景を作りたいという意思は非常に大切であるが、どのようにしたら作り出せるか具体的に考えることが必要である。例えば、都市計画の観点で言えば、近い距離の中で皆が集まれる場所や居心地がいい居場所を作ってあげることであり、公民館や市民会館が昔はそういう使われ方をしてきたが、今はそうではなく、子供達が使えようという形に変わってきている。別の点では、子供達の声が聞こえる場所も原風景になるし、そこにちょっと行ってみようと考えたときに、道路の交通安全の話であるとか、具体的な話をしていくと都市計画としては面白くなってくると思う。

一方でコミュニティを作って、新しいことを、あるいは何か残していこうとなったときには、1グループの意見と合わせて考えていくとより良いものができるのではないかと思った。

とても面白い議論だと思う。短時間でこのようによくまとめていただき、ありがとうございました。

○会 長： コミュニティという話であったが、誰と誰が組めば、一体何ができるのかということをお皆さん結構考えている。先ほど二子玉川の話が出たが、私は7、8年関わっており、あのまちは住民が主体的に動いていると感じている。西東京市にはあまり見られないが、「ゾーン30」という規制のエリアを、東京都ではおそらく唯一住民が決めた地域である。住民が主体となって、事業者を巻き込みながら、100年後のまちの将来を考えて議論が進められている。

これから移動支援として、交通のことについて考えなければならないが、公助の方で行政がなんとかしてくれという要望も明確にあったが、そのような場面でコミュニティの横の繋がりがどのくらい活躍できるのかということも重要である。例えば、バスを走らせるということに、どのようにコミュニティが関わっていくかという視点が交じり合っていくと、面白い事例ができるのではないかと期待ができる。

長野さんが話したように、2つのグループを合わせていくと面白いものになりそうと思った。次回のワークショップではこれを整理して、具体的な交通の話に絞って、具体的に何をすべきかを考え、今日長野さんからの話にあったような互助の部分がどう活かせるのかについて話し合いたい。

○会 長： 総括については、すでにお話したとおりである。是非、地域に戻って、このような意見が出ていたということ話して自慢してほしい。まだまだこの地域はポテンシャルが高い地域だという現状をお皆さんの方からも発信していただければありがたい。

4 その他

○事務局： 次回は、7月25日水曜日の午後2時から4時に、柳沢第三市民集会所で行う。稲垣会長や長野さんからもお話があった通り、このワークショップの成果をどう発展させていくか、どのように移動支援に繋げていくかという観点で、皆様と意見交換をさせていただきたいと思っている。具体的な進め方については、稲垣会長、長野さんと調整し、次回の勉強会で説明させていただく。

○会 長： それでは皆様の方から何もなければこれをもって、本日の勉強会は終了させていただきます。ありがとうございました。

以上